

日本語教育における「待遇表現」の扱い方

下関市立大学 坂本 恵

- 1 はじめにー待遇表現をどうとらえ、どう教えるか
 - 2 待遇表現の定義
 - 3 場と人間関係
 - 4 表現意図に基づく表現の分類
 - 5 丁寧さの表し方
- 付 狭義敬語の分類

2 待遇表現の定義

「待遇表現」とは、

ある「表現主体」が、ある「表現意図」をもつ

→「自分」・「相手」・「話題の人物」相互の「人間関係」を認識し、

「場」の状況・雰囲気、文脈などを意識する

→表現形態（音声表現・文字表現）を考慮する

→以上の制約に応じた「題材」・「内容」、適当な「言材」を選択し、「文話」

（文章・談話）を構成し、「媒材」化（音声化あるいは文字化）する

といった一連の「表現行為」である。

3 場と人間関係

場 ー表現の特徴

+2 改まった場 式典 会議 面接

ー丁寧 : 丁寧語、漢語、言いきり文

+1 やや改まった場 講演会 会議 初対面の人と話す パーティー

ーやや丁寧

0 普通の間 先生、事務の人と アルバイト先 知り合いと話す

ー普通

-1 くだけた場 友人と話す 飲みに行く

ーややくだけ

-2 非常にくだけた場 家族と話す

ーくだけ : (狭義敬語無し)、(格助詞省略)、(省略多し)

人間関係 ー表現 (場: 0)

+2 上位の人 年輩の先生、保証人、初対面の人

ー非常に丁寧: おいでになります (書いていただけないでしょうか)

+1 やや上位の人 先生 先輩 アルバイト先の上司

- 丁寧 : いらっしゃいます 書いていただけませんか
- 0 同等の人 事務の人 親しくない友人 店の人
 - 普通: 行きます、います 書いてもらえませんか、書いて下さい
- 1 下位、親しい人 後輩 親しい友人 家族
 - ぞんざい : 行く、いる 書いて

4 表現意図に基づく表現の分類

- A 自己表出表現（「述べ」の表現）
 - * 「ああ、いい湯だ。気持ちいいなあ。」（「独り言」として）
- B 理解要請表現（「伝え」の表現）
 - * 「明日の会議は12時から始まります。昼食は用意します。」
- C 行動展開表現（「働きかけ」の表現）
 - * 「すみません。水を一杯下さい」

C 働きかけ（行動展開表現）一覧 A：相手 J：自分

表現意図	行動	決定権	利益	典型的な表現
忠告・助言	A	A	A	シタホウガイイデスヨ
勧誘	AJ/A	A	AJ/A/J	シマセンカ・シマショウ
依頼	A	A	J	シテモラエマスカ
許可与え	A	J	A	シテモイイデス
指示・命令	A	J	J/A/	シテクダサイ・シナサイ
申し出	J	A	A	シマショウカ
許可求め	J	A	J	シテモイイデスカ
宣言	J/AJ	J	J/A/	シマス ・サセテモライマス

5 丁寧さの表し方

丁寧にするための条件（待遇意識）

1 人物のとらえ方

- 相手を「高い、大きい、美しい、優れている、力がある、恩恵を与える」存在と考える。
- 自分を「低い、小さい、醜い、劣っている、力がない、恩恵を受ける」存在と考える。
- 話題の人物は、相手側、或いは相手から見ても上位の人であれば相手と同じ扱い、自分側は自分と同じ扱い、それ以外は特別な扱いはしないと考える。

2 その他の注意

- 題材を選ぶ
- 「働きかけ表現」の場合、相手に決定権、自分に利益があるように表す

- 同等の立場におかない—感情を伝えない
- 直接否定、断りはしない
- 必要以上の説明はしない、聞かない
- 間接的に表す／前置きをする
- 自分のことについては卑下し、言い訳をする
等

狭義敬語の分類

1 直接尊重語

<動作主をあげる、持ち主をあげる>

いらっしゃる おっしゃる 高名 高覧 芳名

<書か> (ら) れる お (ご) <書き> になる

—恩恵直接尊重<動作主から恩恵が与えられるという形で動作主をあげる>

お (ご) <書き> 下さる <書い> て下さる

2 間接尊重語

<動作の関係する人物をあげる>

申し上げる 存じ上げる 伺う 拝借

お (ご) <書き> する

—恩恵間接尊重<動作の関係する人物をあげ、かつその人物から動作主が恩恵を受ける>

いただく さしあげる させていただく お (ご) <書き> いただく

—丁寧間接尊重<動作の関係する人物をあげる かたい語感を持つ>

お (ご) <書き> 致す

3 尊卑語

<話し手側か聞き手側かを明らかにする>

—相手側であることを示す (相手尊重語)

貴社 諸賢 御身 玉稿 あなたさま

—自分側であることを示す (自己卑下語)

小生 弊社 愚<息> 拙<著> わたくしども

4 美化語

<きれいにする>

あげる いただく なくなる おいしい ごはん

5 文体丁寧語

<文話全体を丁寧にする>

です ます でございます

6 丁寧語

<動作主をあげない あらたまった気持ちを表す かたい語感を持つ>

致す 申す 参る 存ずる <報告> 致す

わたくし 本日 昨朝 今夕 相<つとめる>

参考文献

- 蒲谷宏・坂本恵1991「待遇表現教育の構想」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要3』
- 蒲谷・川口義一・坂本1993「依頼表現方略の分析と記述—待遇表現教育への応用に向けて—」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要5』
- 蒲谷宏1993「待遇表現における省略」『日本語学』12-9 明治書院
- 蒲谷・川口・坂本1994「待遇表現研究の構想」
『早稲田大学日本語研究教育センター紀要6』
- 坂本・川口・蒲谷1994「『行動展開表現』について—待遇表現教育のための基礎的考察—」『日本語教育』82号

場と人間関係

- +2の場 フォーマルな場 談話が単方向的 話し手、聞き手の属性は全く考えられず、多くの聞き手も一括して聴衆の位置に置かれる。丁寧語、かたい語彙
- +1の場 単方向的な場の中でも、幾分くだけたもの、多方向的なもの（会議）
双方向的なもの、かなり上下格差感覚のある人との初対面の場、面接など。
- 0の場 改まってもくだけでもいない場 ごく通常の、普通の場 人間関係のランク付展開されている場。社会的役割りを持ち、その役割の要求する関係を持ちながら他の人と接している。職場など。
- 1の場 個人的な場であり、くだけた場 親しい友人や家族などとの場、役割がとれ、個人的な友人関係になったような場合。通常の0レベルの人間関係でくだけた場合。
- 2の場 非常にくだけた場。家族、親しい友人。
脱待遇、狭義敬語は使用されない